

～やりたい事は、知りたい事～

絵の具と画用紙、筆を置くと、最初は戸惑っていますが、周りの様子を見て、筆や絵の具に手を伸ばします。

画面に絵の具を塗り、色を混ぜていきます。その中に「おさかながいる」と、イメージしています。手に付いた絵の具を見つめ、足にも塗ってみます。床シートに付いた、はじく絵の具を見つめています。絵の具を紙の上に流し続けています。澱粉のりを出すと手や足に塗り、何かを感じている様子です。

自分の手元で起きる事を見つめ、やりたい事に没頭していきました。大人は声掛けを控えながら見守り、子ども達も静かで平和です。感じ、考える間(ま)がある事で、自分の世界に入っていたのでしょう。

絵の具を流し続けると、マーブル状に美しい色が生まれます。しかし、そこを見ているわけではないようです。液体を流す感覚、その特性を確かめ、出会っているかのようです。そんなにそれがやりたかったのか、と気づきました。

いつもやらない子も没頭しています。真剣な眼差しです。ゴールを決めず、ただ、子ども達の行動を見守ると、何に興味があり、何を感じ、何を知りたいのか、彼らの姿が見えてきます。

小さい人達はまず、その物、起きる事と出会っていきます。何度も確かめながらインプットしていきます。その興味が“なぜだろう”と問いを生み、探求し、学んでいく種となるはず。やりたい事(興味)は、知りたい事。そうやって世界を知っていくのでしょう。

彼らが何かと出会った痕跡には、その子が心動かしたものが表現されています。そのプロセス、表情を知っていると、濁色、飛び散った痕跡も、愛おしく見えてきます。

